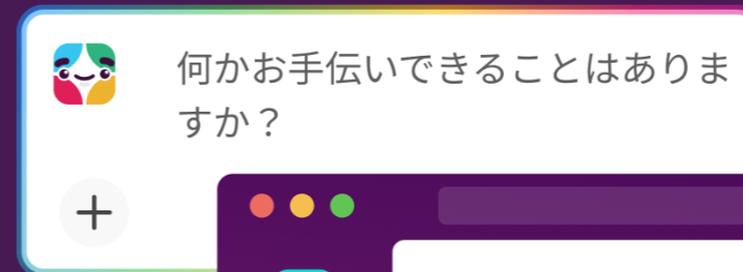




Slackbot で チームの仕事を スピーディーかつ スマートにする 10の方法

Slack 内で機能する、仕事のための新しいパーソナル AI エージェント「Slackbot」をご紹介します



改めまして、
こんにちは ✨



目次

分散した仕事から、接続されたコンテキストへ	03
Slackbot とは	06
Slackbot はどこに現れる?	09
Slackbot と AI でチームの仕事をスピーディーかつスマートにする 10 の方法.....	15
1. 仕事の文脈を理解するパーソナルエージェントを、すべての従業員に	16
2. 日々の業務やミーティングの開始時に、優先順位が明確に	17
3. 分散した会話を顧客インサイトに変換.....	18
4. カスタマーサービス部門のトレンド把握、速やかな問題解決、顧客との関係構築を支援.....	19
5. 社内のナレッジを活かして、市場投入プランを策定.....	20
6. 部門横断的なプロジェクトで足並みを揃える	21
7. エンジニアリングチームが速やかにインシデントを把握し、作業を円滑化できるよう支援.....	22
8. IT チームは、トレンド、問題、最適化の機会を明確に把握できるように	23
9. 経営幹部とのミーティングの準備が数分で完了	24
10. チームの状況を把握し、メンバーを効果的にサポートできるようマネージャーを支援	25
チームが Slackbot を導入することの意義	26

1

分散した仕事から、接続された コンテキストへ



チームはこれまで以上にハードに働くことを求められているにもかかわらず、仕事の基盤がそれに対応したものになっていない——。今あらゆる業界でこうした状況が見られています。

さまざまなツールをバラバラに使う、情報を探し回る、経緯を何度も確認するといった仕事の進め方は、ヒビの入った土台を繰り返しテープで修理しながら耐えているようなものです。作業は各種アプリやタブに分散し、働く人は手動での繰り返しタスクに膨大な時間を費やしています。実際、このようなツールの切り替えを 1 日中強いられることで、**生産性が 40% 低下する**とも言われています。こうした分断により、反復作業が増え、引き継ぎが遅れ、ミーティング前の準備に多くの時間がかかるという状況が生じています。

今こそ、新しいアプローチでこの状況を変える時です。実際の業務としっかりつながった方法を採用することで、仕事の足を引っ張っている摩擦を解消できます。

Slack はシンプルな方法で、仕事の基盤を刷新します。それは、**会話、ツール、データ、エージェントを 1 つの会話型インターフェイスに集約して連携させる**というアプローチです。仕事の流れを止めることなく、状況を明確に把握してスピーディーに行動できるようになることで、チームは価値の高い業務に注力する余裕を得て、意義のある成果を導けます。

さらに **Slack の AI** と、新たに再構築された **Slackbot** を活用することで、ユーザーは必要なことを自分の言葉で依頼して、Slack に仕事を任せられます。Slack は、人とエージェントが連携して仕事を進められる場所です。文脈がつねに共有され、モバイルファーストで親しみやすく直感的な環境が用意されています。個人とチームの両面で仕事の生産性が向上することで、組織は影響力を高め、ビジネスを次の段階へと成長させるための強力な基盤を手にすることができます。

複数のツールを切り替えて使うことにより、
生産性が **40%** 低下します。

Slackbot 入門

SLACKBOT とは

Slackbot は Slack 内で利用できる「仕事のためのパーソナルエージェント」です。ユーザーの会話、ファイル、プロジェクト、関係者を理解し、ユーザーの希望に沿って、二人三脚で働いてくれます。仕事の流れの中で、検索、整理、下書き、問題解決を支援し、生産性向上をサポート。特別なセットアップは必要なく、すぐに利用できます。

重要である理由

Slackbot を利用することで、ユーザーはアプリを切り替える必要なく、集中力を保ってスムーズに仕事を進められます。自分の状況に合わせたサポートを得て、業務の負担を軽減できます。あなたを理解するパーソナルエージェントと一緒に働くことで、生産性の大幅アップが期待できます。

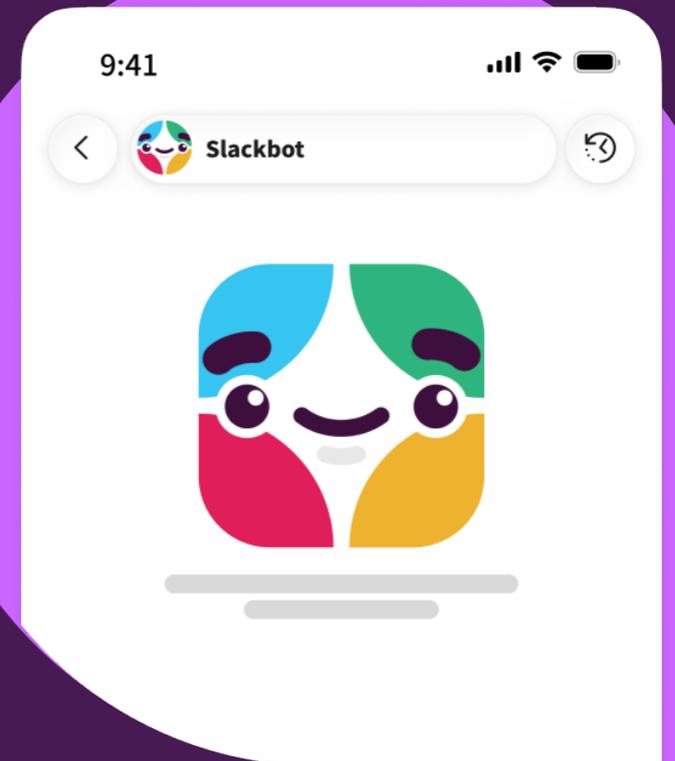
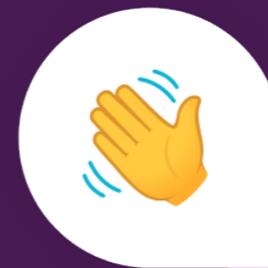
ほかのチャットボットとの違い

Slack ネイティブで組み込まれる Slackbot は、コンテキストを認識し、アクション指向で、安全性も保たれています。ユーザーがすでに仕事をしている信頼性の高い 1 つの場所で、検索、コンテンツ作成、リマインダー、パーソナライゼーションを組み合わせることで支援します。ほかのチャットボットとは異なり、Slackbot はユーザーとその業務内容を深く理解し、ユーザーのトーンを反映したユニークな応答を返します。



2

Slackbot とは



AI は自然に感じられるような存在であるべきだと Slack は考えています。つまり、後づけ感があったり、集中力のじゃまになったり、なんらかの「学習」が必要になったりするものであってはなりません。だからこそ私たちは、ユーザーがすでに利用している Slack の会話や [canvas](#)、[チャンネル](#)、共有ファイルに AI を編み込んでいます。[Agentforce](#) が人とエージェントがともに働くための扉を開き、Slackbot がそのビジョンを個人のレベルへと広げます。

Slackbot は、あなたが Slack 内でいつでも利用できる、仕事のためのパーソナルエージェントです。日々の業務のバックグラウンドで機能し、ユーザーの仕事の流れを理解して、必要な時に必要な情報を提供します。Slackbot は、そのユーザーがアクセス権をもつ会話のすべてを把握し、これまでは埋もれていたかもしれない点と点とをつないで、疑問をアクションに変えてくれます。ユーザーはツールを切り替えることなく、これを実現できるのです。

個々のユーザーの業務にもとづいて、Slackbot は仕事のパターンや好みのトーン、担当するタスクのタイプを認識します。要約、準備、下書き、検索、整理、ガイドを担ってくれる AI アシスタントにより、ユーザーはこれまでの仕事習慣を変えることなく、快適にサポートが得られます。

なにより Slackbot によって、ユーザーは仕事を次のステップに進めやすくなります。特別なプロンプトや技術的なスキルは必要ありません。自分の言葉で尋ねるだけで、あとは Slackbot が作業を引き継いでくれます。

「Slackbot はいつもそばにいる優秀な同僚のような存在で、ステータスがつねに緑色、つまり、Slack 内でいつでも対応してくれます。複数のアプリやウィンドウを切り替えて、思考の流れが妨げられることはもうありません。Slackbot に尋ねるだけで、ふだん仕事をしている Slack から一步も離れることなく、調査やコンテンツ作成をしてもらえます。おかげで毎日の作業効率が大幅に上がりました。集中力が途切れることも、余計なストレスもありませんね」

CHRISTINE MCHONE 氏
GLOBAL ENTERPRISE TMT LEADER
SLALOM

The logo for Slalom, featuring the word "slalom" in a lowercase, blue, sans-serif font, enclosed within a white rounded rectangular shape.

このような機能のすべては、Slack の信頼できるセキュリティ基盤内で実現できるため、チームは安心して AI を大規模に導入できます。Slackbot とのやり取りは、そのユーザーのみに表示され、ほかの人が目にすることはありません。また、Slackbot が閲覧できるデータは、そのユーザーがアクセス権をもつデータのみです。この基盤は、Slack の AI ガードレールとエンタープライズグレードのセキュリティの枠組みで強化されており、あらゆる AI 機能の完全性が保護されるとともに、厳格な安全対策の適用により、悪影響の軽減、プライバシー保護、顧客の信頼維持を実現します。Slack AI および Slackbot を利用する際に、ユーザーのデータが保存されたり、大規模言語モデルのトレーニングに使用されたりすることはありません。

Slackbot は、今のあなたと次のアクションとの間にある壁を取り払います。Slack ネイティブの AI 機能と、拡大を続けるエージェントエコシステムとともに、Slackbot は個人、チーム、組織全体が、業務の流れの中でより明確に、中断なく仕事を進められる環境を実現します。

このガイドでは、チームが Slack で Slackbot と AI を使って、よりスピーディーかつスマートに仕事をするための 10 の具体的な方法を紹介します。



Slackbot

こなすべきタスクを確認しましょう！



**アクセス権のあるファイルと
メッセージを検索しています**

3

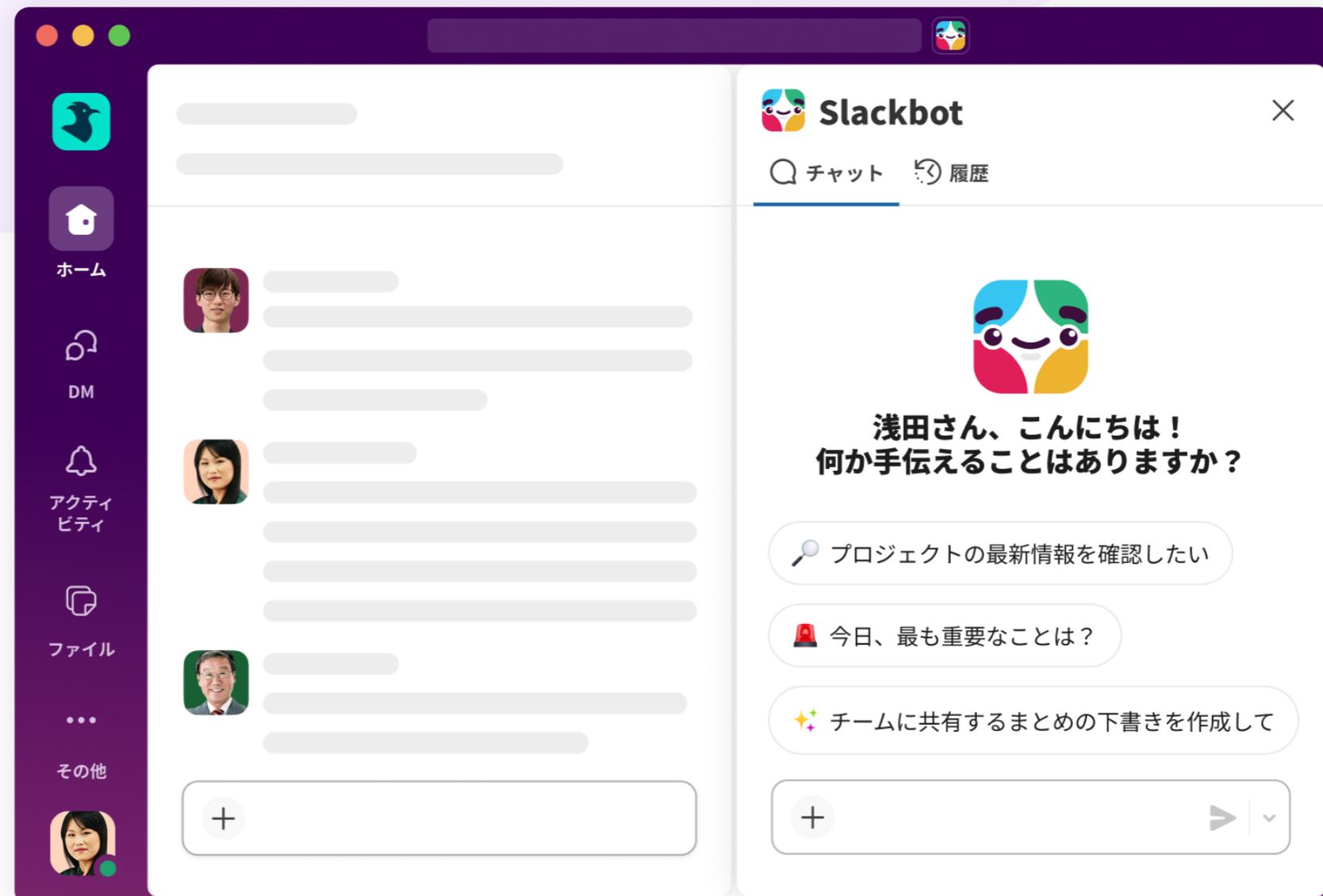
Slackbot はどこに現れる？

Slackbot は見つけやすく、簡単に使えるよう設計されています。Slackbot はあなたがいつも仕事をしている場所に表示されます。仕事の進め方を変える必要はありません。



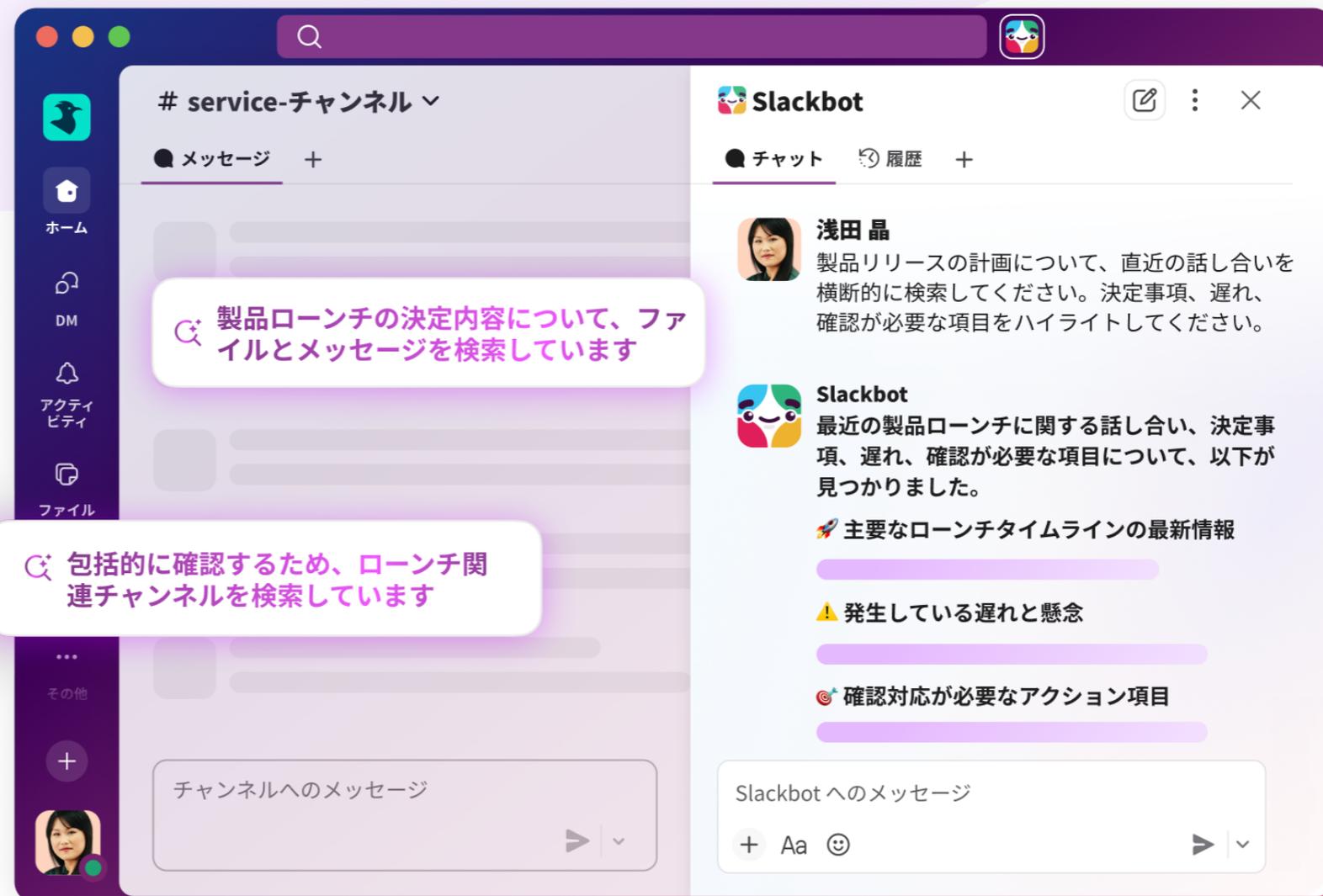
サイドバー内で

サイドバーで Slackbot にアクセスできます。ユーザーはそこからいつでも会話を始めたり、プロジェクトについて確認したり、簡単な質問をしたりできます。自分の言葉で何でも尋ねられる専用のスペースだと考えてください。



チャンネル内で

ユーザーがチャンネル内で仕事をしている時、Slackbot はその人に関するコンテキストを把握します。ユーザーがチャンネルの canvas を開くと、Slackbot はそれを認識してフォローアップのプロンプトを提案し、ユーザーが内容を調整したり、新しい質問をしたり、さらなる情報を得たりできるよう支援します。



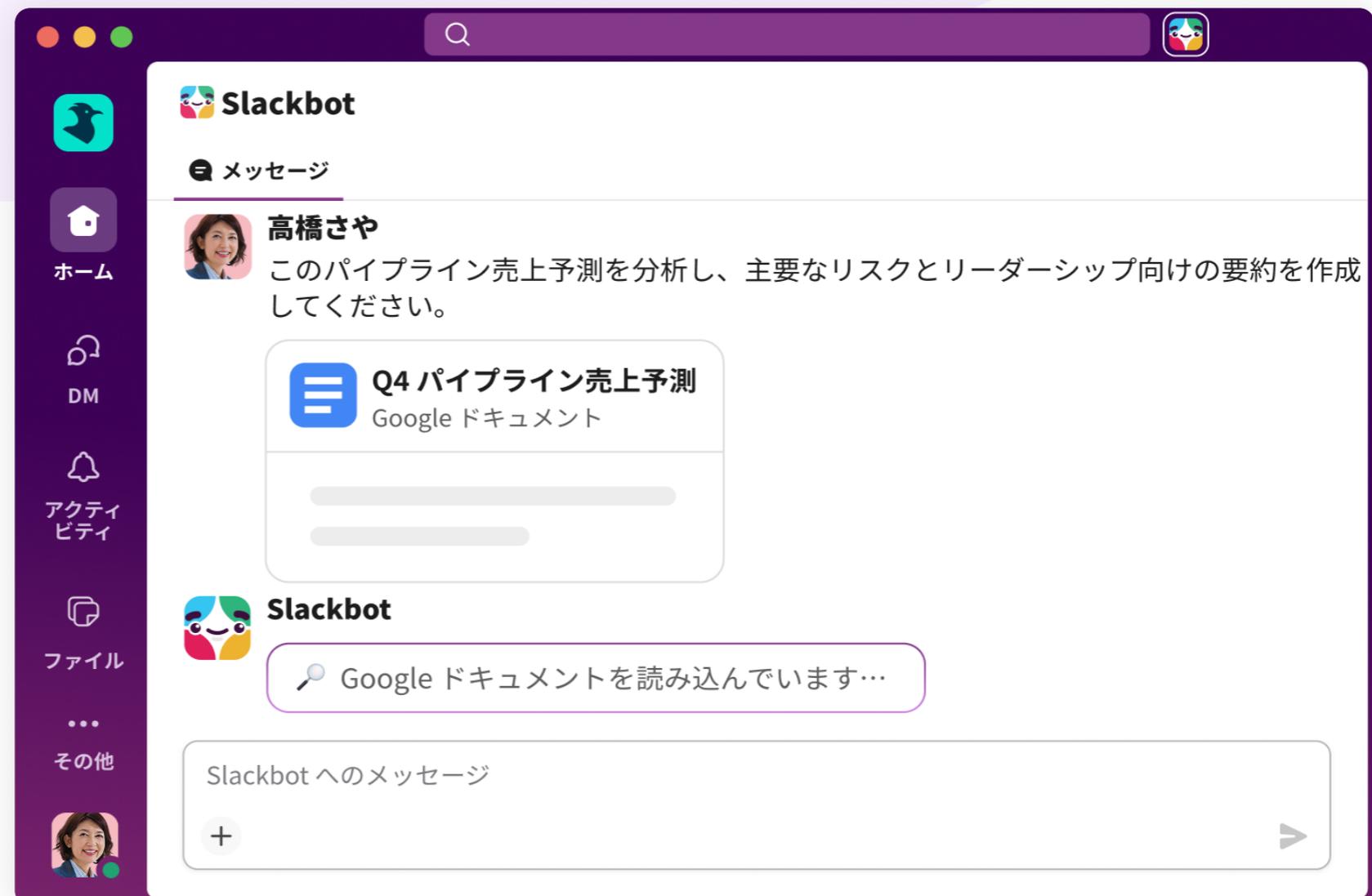
canvas 内で

プロジェクトの概要やまとめ、ミーティングのアジェンダ、ローンチの計画など、あらゆる canvas の作成・更新を Slackbot が担ってくれます。canvas を開いた後も分割ビュー内で Slackbot にアクセスでき、引き続き二人三脚で作業を進められます。



メッセージ作成領域で

メッセージやドキュメントについて新しい疑問や要望が生じた場合は、メッセージ作成領域から直接 Slackbot に質問できます。Slackbot がコンテンツの要約や、専門用語の説明、フォローアップの下書き作成などを瞬時に行ってくれるので、仕事の流れが途切れません。



ツールを横断して

Slackbot が扱えるのは、画面に表示されている内容だけではありません。必要なものを伝えるだけで、Slackbot がチャンネル、メッセージ、ファイルのほか、あなたが日々使っている接続済みのツールも参照して、適切な情報をまとめてくれます。

The screenshot displays the Slack interface. On the left is a sidebar with navigation icons for Home, DM, Activity, Files, and Tools. The main area shows a channel named "# 全社" with a search bar and a "メッセージ" button. A calendar icon with the number "12" is visible. Two callout boxes are overlaid on the channel chat: one says "カレンダーの空き状況を確認しています" (Checking calendar availability) and the other says "Q4 議論用アジェンダを作成しています" (Creating Q4 discussion agenda). On the right, a Slackbot chat window is open, showing a message from "スティーブン" (Stephen) asking to check calendars for @浅田 (Asahida) and @安居 (Anzai) and create a Q4 agenda. Below that, a message from "Slackbot" provides a report: "朗報です！来週前半に、3人とも参加可能な45分枠が複数見つかりました！空いている時間：12月15日(月)：午前9:00～9:45、午前9:15～10:00。Q4計画を含めたアジェンダ用canvasを作成しました：" followed by a button for "Q4 議論用アジェンダ" (Q4 discussion agenda) with "編集可能" (Editable) text. At the bottom, there are input fields for "チャンネルへのメッセージ" and "Slackbot へのメッセージ".

4

Slackbot でチーム の仕事スピーディー かつスマートにする 10の方法



仕事の文脈を理解するパーソナルエージェントを、すべての従業員に

Slackbot 導入前

AI アシスタントを導入したものの、コンテキストがなかったり分断されていたりして、十分効果を発揮していませんでした。環境への適応能力や学習能力がなく、操作性も今ひとつで、従業員の間での利用が広がりませんでした。

Slackbot 導入後

コンテキストを理解するよう設計された Slackbot は、より正確で関連性の高い応答を返し、実際に仕事を進めるためのアクションを起こしやすいツールとして役立ちます。Slackbot はユーザーとその業務をすばやく理解し、時間の経過とともに好みやコミュニケーションのスタイルに適応。従業員は一人ひとりに合った適切かつ現実的な支援が得られます。

新しい Slackbot は、あなたの会話、ファイル、ワークフローとしっかりと結びついています。Slack 内のメッセージ、ファイル、カレンダーや、接続されたシステムから情報を引き出して、質問に答え、文脈に即したアクションを提案します。

基本原則

- **仕事の流れの中で利用できる。** Slackbot は、ユーザーがすでに利用している会話や canvas 内で機能します。ユーザーはツールを切り替える必要なく、集中して仕事を進められます。
- **リアルな文脈を反映して動作する。** ワークスペース内のチャンネルやファイル、接続済みアプリを理解している Slackbot は、一般的な推測ではなく、ユーザーの仕事内容を反映した応答を返します。
- **操作がカンタン。** ユーザーは自分の言葉で質問し、その都度、内容を調整しながら、一貫して会話形式でやり取りを続けられます。Slackbot は終始ユーザーのペースに合わせて支援します。
- **仕事を前に進める。** ただ情報を提示するだけでなく、canvas の作成や、プランの概要説明、メッセージの下書き、リマインダー設定のほか、適切な同僚への引き継ぎも行なってくれます。
- **信頼と制御性を基盤にした設計。** Slack のエンタープライズセキュリティモデルを踏襲する Slackbot は、そのユーザーにアクセス権がある情報のみを用いて、業務の安全性を確保しながら、強力なサポートを提供します。



日々の業務やミーティングの開始時に、優先順位が明確に

Slackbot は、あなたが毎朝仕事を始める前に確認するコントロールセンターのような役割を担います。Slack および Google ドライブ、Salesforce、OneDrive などの連携システムから、メッセージやファイル、カレンダーイベントの情報を取得して、ミーティング、急ぎのメッセージ、未処理のタスクといった重要事項を 1 つのビューにまとめてくれます。

質問の例

- 「今日、私が優先すべきことは何ですか？」
- 「お客さまとの次回のミーティングに備えて、アカウントレビューを要約して canvas にまとめて」

Slackbot が最新の情報やコンテンツを 1 つのブリーフィング用 canvas にまとめてくれるため、あなたはチャンネルや文書を探し回ることなく、準備が整った状態で仕事やミーティングを始められます。

Slackbot 導入前

営業リーダーは、重要なミーティングの前に 30~60 分かけて、スレッドやプレゼン資料、打ち合わせの記録からこれまでの経緯を確認し、話す内容を調整していました。

Slackbot 導入後

Salesforce の営業担当者は、Slackbot に対して、canvas や Google スライドの資料が含まれた顧客チャンネルの履歴を要約し、優先順位や課題、自社の現在のポジショニングを抽出してくれるよう依頼。Slackbot からすぐに提供された要約を、ナラティブ作成を担当する同僚に共有して、ミーティングに向けた準備をすばやく整えています。



分散した会話を 顧客インサイトに 変換

顧客とのやり取りは、ハドルミーティングの文字起こし、通話記録、チャンネル、共有ファイルなど、さまざまな場所に保存されています。Slackbot はその内容を分析し、テーマや問題点、次のステップなどを導き出します。

プロンプトの例

- 「このお客さまとの昨日の初回打ち合わせを要約して、問題点、予算の見込み、アクション項目を抽出してください」
- 「#営業-戦略と #財務から、新しい価格モデルについての議論を要約してください」

Slackbot はチャンネルや canvas を横断して検索を行い、最新情報をまとめて、決定事項を特定し、未解決の問題を提示します。これにより、チームは認識を共有したうえでミーティングを始められます。最初の 15 分を現状把握に費やす必要はもうありません。

Slackbot 導入前

顧客担当チームは、経営幹部との会議に必要な数か月分の情報を 1 つのチャンネルに閉じ込めていました。重要なメッセージや資料、フィードバックなどがすべてそこで共有されているため、担当者はチャンネル内を延々とスクロールして、ストーリーをまとめなければなりませんでした。

Slackbot 導入後

営業担当者は Slackbot に対して、チャンネルの履歴、canvas、スライドを分析して以下のことを説明してくれるよう依頼できます。

- Salesforce ソリューション全体の現在のポジショニング
- Slack が付加価値を創出できる領域
- 顧客の優先順位と課題

Slackbot がわかりやすい要約を作成してくれるので、営業担当者はすぐにそれを関係者に共有できます。そのスピードと精度は、従業員の間でも高く評価されています。

「Slackbot は私のパーソナルアシスタント、つまり AI を組み込んだ知識豊富なインターンがいつもそばにいるようなものです。Slack 内のあらゆる会話を参照して、ブレインストーミングやドキュメントの作成など、スピーディーかつスマートに効果的に仕事を進められるよう手助けしてくれます」

MIKE WILDAY 氏
MANAGER OF LEARNING TECHNOLOGY SOLUTIONS
LOS ANGELES PACIFIC UNIVERSITY

カスタマーサービス部門のトレンド把握、速やかな問題解決、顧客との関係構築を支援

カスタマーサービスチームは、途切れることなく寄せられる顧客からの問い合わせや、技術的な問題、エスカレーションの手続きに際して、複数のチャンネルにある事例や会話の履歴をもとに対処にあたらなければなりません。Slackbot がこのような情報をまとめてくれることで、サービス担当者は現状を速やかに把握し、パターンを早期に認識して、十分に準備ができた状態で顧客対応を始められます。

Slackbot 導入前

カスタマーサポート担当者は、個別のケースを一つひとつ確認して類似例を探し、複数のチャンネルから取引の履歴を調べ、大事な通話の前には、記憶と手作業に頼って必要な情報を検索していました。複数の顧客から同じような問題が同時に報告された際には、担当者は時間をかけて共通点をさぐり、問題がさらに広がっていないかどうかを確認していました。

Slackbot 導入後

Slackbot が以下のことを行ってくれます。

- 最新のサポート事例を確認して、繰り返し発生している問題を抽出し、設定、デバイス、問題になっている動作などの詳細を明らかにする
- 取引金額、サポート履歴、主要な連絡先など、顧客のあらゆる情報をまとめることで、担当者が状況や重要事項を理解したうえで、顧客との会話を始められるようにする
- 引き継ぎがスムーズにできるような、わかりやすい説明の下書きを作成し、直近の議論をもとに気配りのある対応ができるよう担当者を支援する

これまで手動で行っていた調査やクロスチェックを Slackbot が正確かつスムーズに行ってくれることで、カスタマーサービスチームはすばやく行動を起こして、解決までの時間を短縮し、顧客からの信頼を確保できます。

社内のナレッジを活かして、市場投入プランを策定

通常、新しいプロダクトや機能をリリースするには、あらゆる場所からの情報を取りまとめなければなりません。製品に関するディスカッションや、調査メモ、デザインに対するフィードバック、パイロットテストで得られた知見、営業に関する会話といった情報です。Slackbot はこのような分散した情報を集約し、明確な 1 つの出発点を提供してくれます。これによりチームは足並みを揃えて、すばやくプロジェクトを前に進めることができます。

Slackbot 導入前

チームは複数のチャンネルを調べ、古いドキュメントを検索し、最新のポジショニングについて各所に尋ねて、製品、デザイン、調査、営業の各部門がもつ知見を手作業でまとめる必要がありました。ローンチ計画書を作成する際にも、さまざまなメンバーによる下書きをまとめ、調整のためのミーティングを随時設定する必要がありました。

Slackbot 導入後

Slackbot は、指定されたチャンネルを検索し、関連する詳細を収集して、組織のこれまでの経緯にもとづいたローンチ計画の概略を作成できます。重要な調査結果、競争力のあるポイント、ポジショニングに関する過去の作業も提示します。これらの情報はエグゼクティブサマリーとともに canvas にわかりやすく整理されるため、チームによる共同編集も簡単です。

プロジェクトを開始する準備ができたなら、Slackbot に主要な関係者のカレンダーから空き時間を見つけて、会議の時間を確保するよう依頼できます。推奨のアジェンダを canvas に直接追加してもらうことも可能です。

これにより、従来は何時間もかけて行っていた情報の収集、書き直し、調整といった作業を、Slack 内の単一のフローに統合できます。

部門横断的なプロジェクトで足並みを揃える

部門横断型のプロジェクトでは、複数のチャンネルやツールが利用され、チーム間でタイムゾーンが異なる場合も少なくありません。Slackbot を活用することで、各チームは足並みを揃え、連携してプロジェクトを進められます。

Slackbot が以下のことを行ってくれます。

- チャンネルや長いスレッドを要約して、関係者が速やかにキャッチアップできるようにする
- プロジェクトの概要やミーティングのアジェンダを canvas 内に直接作成する
- ドキュメントや文字起こしから、アクション項目や決定事項を抽出する

たとえば価格設定についての会議を行う前に、以下のように Slackbot に依頼できます。

- 「重要な決定事項と未解決の問題を含めた、新しい価格モデルについての最新の会話を #営業-戦略と #財務から要約してください」

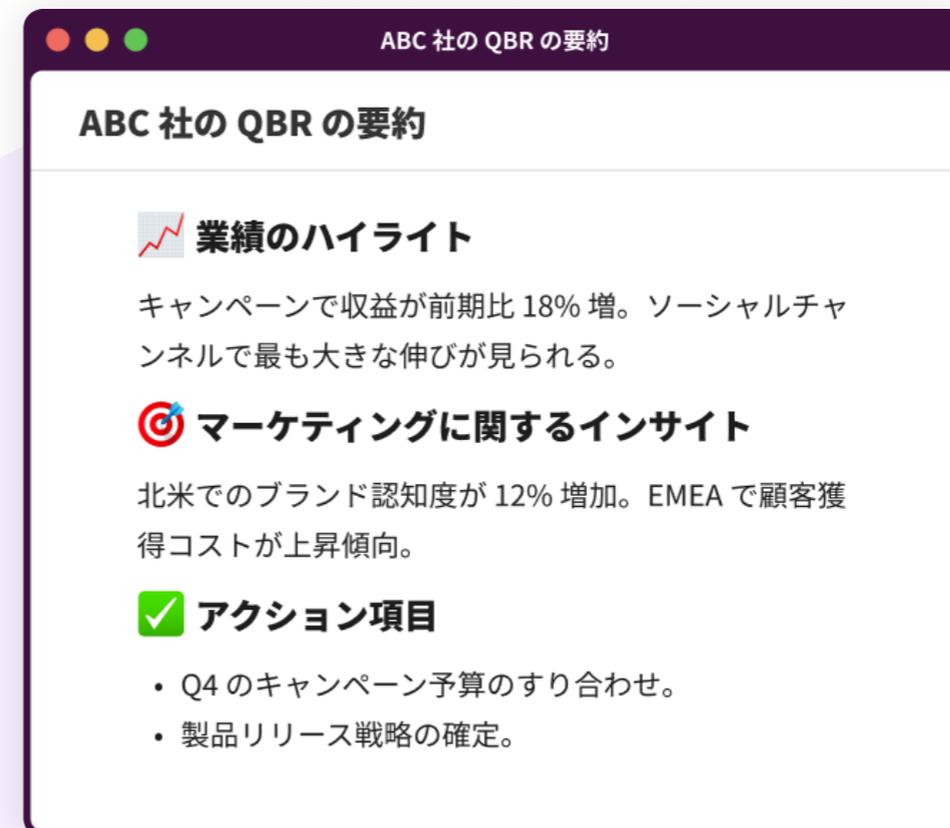
Slackbot は、情報を canvas に集約し、わかりやすいエグゼクティブサマリーをまとめてくれます。この唯一の情報源に対して、マーケティング、営業、財務、プロダクトなどの各部門はコメントをしたり、内容を編集したりできます。

Slackbot 導入前

関係者は、複数のチャンネルやメールのスレッド、さまざまなバージョンの文書から最新情報を見つけ出す必要がありました。また、ミーティングの始めには進捗共有を行わなければならない、重要な意思決定にかかわる話し合いをするまでに時間がかかっていました。

Slackbot 導入後

Slackbot が決定事項やリスク、次のステップを含めた簡潔なまとめを提供してくれるため、ミーティングでは未解決の問題への対応に集中した話し合いができます。



エンジニアリング チームが速やかに インシデントを把握し、作業を円滑化できるよう支援

エンジニアリングの仕事では、スピードと細部への注意の両方が求められます。インシデントやプロダクトに関するディスカッションが生じた場合、チームはアクションを起こす前に、複数のチャンネルから状況を把握しなければならないケースがよくあります。Slackbot がこのような情報をまとめてくれることで、エンジニアは作業を停滞させることなく、スピーディーに問題に対処できます。

Slackbot 導入前

エンジニアは、延々と続くスレッドを確認して、どのインシデントが解決済みで、どれが未解決なのか、誰が回答を待っているのかなどを把握していました。スプリント計画や製品レビューに向けたブリーフを作成する際には、複数のチャンネルに散在するフィードバックを収集して 1 つのドキュメントにまとめる必要がありました。ドキュメントが十分でないレガシーコードの作業では、オンボーディングや修正に時間がかかっていました。

Slackbot 導入後

Slackbot がインシデントに関するチャンネルを短時間で要約し、対処済みの事項、未解決の事項、フォローアップを必要としているメンバーをまとめてくれます。また、プロダクト、デザイン、顧客に関するチャンネルからフィードバックを収集し、スプリント計画についての話し合いに向けて構造化されたブリーフを用意します。古いコードベースについて作業する際には、エンジニアは Slackbot に対して、コードと関連する会話をもとに、わかりやすいドキュメント、インラインのコメント、API の説明を作成するよう依頼できます。

これにより、チームは情報の取りまとめにかかる時間を短縮し、問題へのすばやい対応と解決を実現して、プロジェクトの前進に注力できるようになります。

「ほかのツールと比べても、自社のビジネスの文脈をはるかに効果的に反映してくれるバーチャルアシスタントです。Slackbot のおかげで効率が大幅に向上し、毎日 30 分は節約できていますね」

MOLLIE BODENSTEINER 氏
SVP OF OPS, ENGINE

Engine™

IT チームは、トレンド、問題、最適化の機会を明確に把握できるように

IT チームは、絶え間なく寄せられるリクエスト、システムアラート、トラブルシューティングを管理しなければなりません。Slackbot は、IT チームがさまざまな情報の中からパターンを抜き出し、問題を速やかに解決し、システムを円滑に運用できるよう支援します。

Slackbot 導入前

IT 担当者は、繰り返し発生する問題を発見するのに、サポートチャンネルやチケットログを調べ回る必要がありました。ヘルプデスクのチャンネルでは、よくある質問への対応だけでバックログが発生していました。アクティブでないアカウントや使われていないチャンネルなど、ワークスペースのアクティビティを確認するには、手作業でのレポート作成が必要でした。メールコネクタに関する問題のトラブルシューティングや認証エラーに対処する場合には、複数のドキュメントや過去の議論から情報を集めなければなりませんでした。

Slackbot 導入後

Slackbot が以下のことを行ってくれます。

- 複数の IT 関連チャンネルを調べて、その週に最も多く発生した問題をまとめたり、繰り返し発生している問題を発見したり、新たなドキュメント作成やプロセス変更が必要な領域を見つけたりする
- 会話の履歴から、頻繁に寄せられる質問を抽出し、簡潔な応答の下書きを作成して、チケットのキュー削減に貢献する
- 監査ログを確認して、アクティブでないゲストユーザーを把握し、システム最適化の機会を特定する
- 関連ドキュメントをまとめたり、過去の類似事例から次のステップを提案したりすることで、Gmail や Outlook などの設定サポートやトラブルシューティングを支援する

回答をすばやく提供できる仕組みと、運用に関する明確なインサイトが得られることで、IT チームは組織の成長につながる業務のサポートに注力できます。

経営幹部とのミーティングの準備が数分で完了

Slackbot 導入前

営業担当者は CFO の前で自信をもって説明できるようにするために、財務部門の協力を得ながら、何時間もかけて手作業で準備をする必要がありました。

Slackbot 導入後

営業担当者は、質問事項、トークのポイント、関連ソリューションの価値提案を盛り込んだ独自のプレイブックを約 1 時間で作成できるようになりました。会議中に CFO から、どのような支援策があるか問われた際にも、豊富な背景情報をもとに説得力のある回答を用意していたことで、さらに深い対話につなげることができました。

通常、経営幹部とのミーティングの前には入念な準備が必要です。経営幹部にとって何が優先されるのかを理解し、過去のディスカッションを確認して、チームの誰が何を発言するかについて調整しておく必要があります。

Salesforce のある営業担当者は、CFO との 30 分のミーティングに向けた準備をする際に、Slackbot が以下のことを支援してくれるようになったと言います。

- 最高戦略責任者、営業責任者、マーケティング責任者との会議に先立って、必要な背景情報をまとめる
- メモやスライドを Slack チャンネルや canvas にまとめる

営業担当者は Slackbot を以下のように活用しています。

1. 顧客との過去の会話から、課題や目標など重要なトピックをまとめてもらう
2. CFO との 30 分のセッションに向けて、ミーティングプランを提案してもらう
3. 入手できる背景情報をもとに、その CFO に関連した質問の下書きをしてもらう
4. 買収統合のプレイブックやリアルタイムのプロジェクト財務ダッシュボードなど、顧客の状況に合った価値提案を作成してもらう

チームの状況を把握し、メンバーを効果的にサポートできるようにマネージャーを支援

マネージャーは、チームメンバーがどのような仕事に取り組んでいるのか、どこで行き詰まっているのか、どれが称賛に値する成果なのかを把握する必要があります。そのための背景情報を Slackbot が明らかにしてくれることで、マネージャーは情報収集に費やす時間を減らし、リーダーとしての仕事に注力できます。

Slackbot 導入前

マネージャーは、部下との面談を行うにあたって、複数のチャンネルや DM、プロジェクトのスレッドから最新情報をまとめる必要がありました。障害要因を把握するためにはプロジェクトの議論をすべて読まなければならない、チーム全体のトピックやコミュニケーションの傾向を把握する際にも手作業が必要でした。メンバーを称賛しようと思っても、優れた成果の事例を知るのに「周囲の人に聞いてまわる」しか方法がありませんでした。

Slackbot 導入後

Slackbot がチームの最近のアクティビティを要約して、成果をハイライトし、サポートが必要な領域を明らかにしてくれます。プロジェクト用のチャンネルを分析して、行き詰まっているメンバーを見つけたり、遅れの原因を説明したり、予定されている 1on1 で取り上げる内容を提案してもらったりも可能。パフォーマンスに関する面談の準備をする際にも、Slackbot が Slack 全体からチームメンバーの業務の事例を集めてくれます。チーム全体に関しても、会話内で繰り返し取り上げられているテーマや、摩擦の兆候を特定してくれるため、マネージャーは問題が大きくなる前にいち早く対策を講じることができます。

Slack 内でのアクティビティの情報から、Slackbot がマネジメントに役立つインサイトを抽出してくれるため、マネージャーはチームとのつながりを保ち、自信をもって準備を整え、メンバーを明確にサポートできます。

新しい Slackbot を迎える準備はできましたか？

Slackbot はこれまでの働き方に自然に溶け込むように設計されているため、ユーザーは仕事の習慣を変える必要はありません。

Slackbot は以下のことを実現するのに役立ちます

- 一人ひとりの従業員が、必要な準備を整え、集中力を保てるようにする
- マネージャーやリーダーが全体像をいち早く把握できるようにする
- 法務、財務、エンジニアリングなどのスペシャリストが、手作業から解放され、専門的な業務に注力できるようにする

Slackbot はすでに利用可能です。以下の方法で、今すぐ Slackbot の詳細をご確認ください。

- [デモ](#) Slackbot の紹介ビデオを見る
- [お問い合わせ](#) 営業担当者がお客さまの組織に合ったプランをご紹介

人、エージェント、データを集約する場所として Slack を導入するチームが増えるにつれて、コンテキストは障壁ではなく資産となっていきます。コンテキストを理解する Slackbot を利用することで、チームはあらゆる会話をもとに、仕事をよりスピーディーかつスマートに進められるようになります。

こんにちは！
何か手伝えることはありますか？



 プロジェクトの最新情報を確認したい

 今日、最も重要なことは？



本資料は情報提供のみを目的としたものであり、拘束力のある文書ではありません。本資料の情報に基づいて購入の決定をしないでください。プロダクトや機能の開発、リリース、タイミングはすべて Slack の裁量に委ねられ、変更される場合があります。

© Copyright 2026, Salesforce, Inc. All rights reserved.